
乱世を飛ぶ白黒の翼

異国の幻者

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

乱世を飛ぶ白黒の翼

【Nコード】

N30260

【作者名】

異国の幻者

【あらすじ】

これは現世で悲しき死を遂げた少年が輪廻転生をして新たな人生を進んでいく物語。彼はそこでどのように生き歩いていくのか。それはまだ誰にもわからない……

舞台は三国志なのですが、真恋姫＋無双を元に書いて行きます。また、初めての小説ですので全くの駄目文です。それでも良ければ読んで貰いたいです。

ちなみに、オリ主でオリジナルストーリーになるので、それが苦手

な方はご遠慮ください。

また、誤字脱字があれば遠慮なく言って下さい。可能な限り訂正します。

プロローグ（前書き）

初めてですどうかよろしくお願いします

プロローグ

そこは何もない空間だった。音もなければ光すらない。ましてや生物すら存在しない空間だ。

そこで一つの淡く光”もの”が出てきた。それは次第に人の形へと変わっていった。

そして人としての形が整うと彼は目を開けた

（此処はいつたい何処何だろ？ 確か僕は大勢の群衆に囲まれて
殺された筈。

現にあの時の激痛は覚えている。

沢山の刃物で突かれたり切り裂かれたりした。また、人には無い翼
が僕には有ったので、それをもぎ取られた感触すらも……

なのに、項も意識がはつきりしているのだろうか（？―？）（

僕は一人でそう考えていた。すると、突然声がして来た。

？「はあゝ、混乱しているのか少年」

「…ッ！！、誰ですかあなたは」

？「おいおい、他人に名を尋ねる時にはまず自分から言うものだろ」

「あ、……すみません、色々と考えていたので…

僕の名は白崎黒翼（しろさきくろつばさ）です

それで、あなたは一体誰なんですか？それに此処は？」

「解ればいい。んで俺はまあゝおまえ達のところで言う神さまみた
いなもんだ。で、此処はあの世とこの世の狭間だな」

なるほど。と言う事は僕はやっぱり死んでいることなんだ。
でも、なんでこの狭間にいるんだろ？

「おろ、意外と冷静じゃないか」

思考を読まれた！？って神さまだから出来るんですね

「そう言う事だ。そして俺がお前を喚んだかと言つと、……………」

「言つと……………、何ですか？」

「転生してもらつたためだ！！」

「え、……………転生、ですか？」

「ああ、転生だ」

「い、いきなりですね（。。；）
何故なんですか？」

「それはな、ゼウスが君に対して辛いことや哀しいことしか起きないようにして生まれさせたためだ」

……………へッ??

「全くあの糞爺が、遊び半分でふざけたことしやがつて（；・ー・）
|| 3

それで、君は辛いことや哀しいこと、苦しいことが多く訪れるのに
楽しいことや嬉しいこと、幸せなことが一切無かつたんだ。」

ま、まさかそんな事が

「しかもだ、逸れが判つたのが君が死ぬ直前だつたんだよ此が」

うう（T―T）……………、そその後どうしたんですか？

「（相当効いたみたいだな…）今は俺以外の神々が爺をボコッているとこだ」

「そうなんですか」ズーン

「（やっぱり落ち込むよな……）

よし、もつとボコッてやるか爺を）そう落ち込むなよ 俺達もこれではいけ無いと思い転生することを勧めに来たんだ もちろん特典も付けてやるぞ」

「そうだったんですか 僕ももう少し生きたかったので転生しますそれで特典とは何ですか？」

「そうか転生するのだな 分かった

此方の不祥事とは言えすまないm（――）m ちなみに特典についてだが

一つ目、身体強化と気が使えるように

二つ目、鍛えれば鍛えるほど能力が上がる才を

三つ目、お前の使いたい得物を転生先に贈る ちなみに数は三つまでだ」

「はへーすごいですね ちなみに転生先は何処何ですか？」

「おろ？言つてなかったか？

転生先は三国志だ「え、それっ……」と、言つても真恋姫＋無双の世界なんだかな…

特徴は有名武将がほとんど女性と言いことなんだが」

「じ、女性なんですか！？ば、僕一回も話したこと無いんですよのにそんな……」

「大丈夫だ 此方が出来る限りサポートしてやるからよ」

「……………わ、分かりましたサポートの方お願いします
後、得物の事なんですが刀、棍、籠手に刃の着いたのをお願いします
す」

「ふむふむ、その三つを主体とするのか
ならば、刀は村正が造った百狐を、棍はオリハルコンでできたものを、ツメも同じ素材で」

「何か凄まじくヤバい物ないですか 村正とか特に……
あれって妖刀でしたよね？」

「そこは大丈夫だ 俺の力で、性能はそのまま妖しの力だけを取り除いた刀にしたから」

「それなら安心しました」

「そうか、ならばいいよ転生先に送るぞ いいか？」

「はい！！大丈夫です」

「よし！！ならば送るぞ……
どうか君に幸多く有らんことを……」

そう、神さまが言つと僕は意識を落とした

??? 視点終

神視点

おう、俺は神だ　ちなみにオーデインだ
俺達の最高神である爺ゼウスが遊び半分で1人の少年を不運にさらしやが
った！

まったく、ふざけたことしやがって（；-_-） 3

そして、今丁度少年を転生させたんだ 彼は不運な事ばかりだったからどうか幸せに成って欲しいものだ
まあ、此方も出来る限りサポートして行くつもりだ………

さて、俺も糞爺を痛めつけに行くか

神視点終

プロローグ（後書き）

終盤しゃべってばかりだった

設定（オリ主編）（前書き）

今回はオリジナル主人公の設定です

設定（オリ主編）

旧名 性 白崎 名 黒翼

新名 性 董 名 襲 字 元代 真名 翼

一人称 僕

原作開始年齢 16才

得物 刀、棍、籠手（刃付き）

内容 刀は村正が造った百狐である しかし妖力はない
メ（箇々では籠手の事）はオリハルコンで造られている
棍とツ

能力 気の使用可能 鍛えれば鍛えるほど能力が上がる才

容姿 前は黒髪黒眼の中で何処にでも居そうな普通男子で有った
転生してからは白に近い灰色の髪で、コバルトブルーの瞳である
ちなみに日常生活ではロングストレート 戦闘時にはポニーテール
である

上の上では有るけれど肌がきめ細やかなでガラス細工で少女のよう

な顔立ち 属に言う男の娘

考慮 前世は、ゼウスの遊び半分で成ってしまった不幸体質で死んでしまった少年

しかし、オーデインにより真恋姫＋無双に転生した
しかも容姿が前世よりも良くなっていたことに驚く（ちなみに一番驚いたのが女性に近い容姿だったこと）

今は乱世を生き延びるために訓練中

得物はすでに扱える 特に体術を織り交ぜた戦いをする（基本、足技）

気では、身体強化と得物に纏わせることだけ
飛ばすことはまだできない

設定（オリ主編）（後書き）

随時増えるかも知れません

翼 幼少期 頼まれ事を受ける（前書き）

遅くなりましたが更新できました

翼 幼少期 頼まれ事を受ける

みなさん、初めまして 白崎黒翼もとい、董襲元代です

現世で死んでしまったのですが、神さまに転生してもらった僕です
今は5歳児になったばかりですよ

……へ、年がたつのが早いと？……

仕方ないですよ。作者の文才能力が成ってないからなんですから

まあ、それは置いておくとして現在、身体強化の訓練中です
神さまから貰った気については、身体に纏わせることは出来ている
ので、気弾として打ち出せるようになる訓練中です

はつきり言っただけなのに上手くない状態です
が？

……ふう、今日の鍛錬は此処までですかね

あまりし過ぎると身体に悪影響ですからね

……そうそう、前有った翼ですが今は背中に刺青っぽい感じで残っています

しかも、気を使うと淡く光るんですよ！

これには驚きましたよ。なんせ僕の親に鍛錬して居るところを見られたくないんです

はつきり言って恥ずかしいと言うのも有りますし、父上が親バカなんです。しかも重度の……

3歳の時に木に躓いて転んで怪我をした時には何処からともなく来て、その躓いた元となった木に対して八つ当たりしてましたからね？（ちなみにこの時持つて来た得物は神さまに頼んでいた棍と籠手だった。ってか何故に父上が僕の得物を持つていたんだ！！）

閑話休代

話がズレてしまいましたね

さて速いところ戻らないと五月蠅いですからね父上『翼——!!、翼何処だ——!!』

.....

行っているそばから此だよ(; _ ;) 3

自宅く

父『翼——!!、何処だ——!!、っ!!まさか、何かに襲われているのか!!もしそうならば助けなければ。待っておれよつば』父上、僕は此处にいますよ『翼——!!』ガバ↑抱きつこうとする音

翼はそれを何ともない動作で避けて顎に一撃を当てた

父『ガッ……、な、何故だ翼……』ボタン

「五月蠅すぎです父上、迷惑なんで」

?『あら、おはよう翼』

「おはようございます母上」

母『あらあら、またあの人叫んでいたのね』

「はい、まだです。逸れより母上おなかが空きました」

母『そうね、ならご飯にしましょうか』

「御意」

父『……………俺、無視??』

父上を放置して朝食を済ませた後、母上から呼ばれたので現在母上の部屋の前にいます

「母上、翼です呼ばれたので参りました。入ってもよろしいでしょうか？」

母『ええ、入りなさい』

「失礼いたします」

サー　　スツ　　サー　　トン

母『翼よく来ましたね、実はあなたにお願いがあって呼んだのよ許してね』

「いえ、構いません事がなかったもので。それでお願いとは？」
コテッ

母『（ああ、ダメよ翼　それ可愛すぎるは！）お願いと言うのはこの下にある村で買ってきてもらいたい物があるのよ　良いかしら？』

「分かりました。それで買ってくる物とはなんですか？」コテッ

母『（ああ、ダメ、ダメよ可愛すぎるは！）其れについては此に書いてあるから自分で読んで確かめてね。』と言われて渡されたのは竹簡だった。それを受け取ると母親は話の続きを言った

母『ちなみに此も修行の内だから気をつけるように。良いわね？』

「御意。其れではいつて参ります」

母上視点

はあ、本当大丈夫かしら。今回は相当の量に成ってしまうのよね。
でもまさか急にあの人が来るなんて
仕方ないわ、翼が帰って来るまでの間に準備をしとかないと

母上視点終

翼 幼少期 頼まれ事を受ける（後書き）

なんか微妙な感じに成ってしまった

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n3026o/>

乱世を飛ぶ白黒の翼

2010年10月25日21時34分発行